

経営者の方向け

株式会社 応用社会心理学研究所
institute of Applied Social Psychology +connect



「選ばれる学校づくり」シリーズ

どうする？「教育の質」保証

「職業教育」改革のビジョン

WEB開催
特別セミナー

無料

経営者向け

- ◆ 学生満足度より大切なことは？
- ◆ 教育成果をどのように測るか？
- ◆ 学校コミットメントを高めるメカニズム
- ◆ 学生生活・教育充実度を高める4つの視点
- ◆ 職業意識を醸成するために大切なこと
- ◆ エンrollment・マネジメントがブランディングにつながる

日時

2024年

10月8日(火) 16:30-18:00 (予定)

Zoom開催

対象

専門学校の理事長、学校長など、
学校経営に携わる方

※ 資料を投影するため、画面の大きいPC、もしくはタブレット端末での参加を強く推奨します。カメラ付き端末での参加が必須です。

※ 通信環境やZoomアプリの設定はご自身でお願いいたします。

※ お申込みいただいた方には後日、当日アクセスいただくURL等をご案内します。

※ 当日ご都合が合わない方も、動画配信や次回セミナーが決定した際にご案内をお送りいたします。右下のWEBサイトからお知らせください。

応用社会心理学研究所では、「専門学校進化論」と題し、職業教育をテーマとした公開セミナーを2016年から2021年にかけて実施してまいりました。組織レベルでの変革、専門学校ならではの職業教育等について、理論と実践にもとづきお話をさせていただきました。

それから3年、専門学校を取り巻く状況が厳しさを増す中、令和8年4月1日には「学校教育法の一部を改正する法律」が施行されます。専門学校においては、大学と同等の項目での自己点検評価や外部識者による評価が求められるなど、「教育の質」の保証がより求められるようになります。

さらに募集においても、大学が就職や資格取得を打ち出し、職業を意識した学部を新設するなどしており、専門学校は「職業教育」をアップデートし、その価値を高めなければ生き残ることが難しい状況となっているのです。

今回は、職業教育の改革やそのための教員の意識改革、しくみの構築などについて、皆さまと一緒に考えてまいります。

専門学校の経営に携わる方にぜひお役立ていただきたいと考えております。ご多忙の折とは存じますが、奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

こんな方
にお勧め

- ☒ 「教育の質」を高める改革を行いたい
- ☒ 学生のやる気を高めたい
- ☒ 退学者（率）を減らしたい
- ☒ 教職員が主体的に動く組織・風土づくりをしたい
- ☒ 自校のブランディングを行いたい
- ☒ 広告ではなく教育力で募集広報を成功させたい
- ☒ エンrollment・マネジメントを実行したい

主催

(株)応用社会心理学研究所 <Aspect>

1987年に日本社会心理学会理事長（当時）の廣田君美を代表に社会心理学者が集まり設立されたシンクタンク。学校法人や大手企業のマーケティング活動や組織運営に関わり、社会心理学を応用した独自のノウハウを提供することで、他社では解決できなかった課題を解決している。

お問合せ（差出人）

(株)応用社会心理学研究所（アспект） 木村、酒井
TEL:06-6941-2171

〒540-0031
大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル5F

お
申
込
み

WEBサイトからお申し込みください ➡

<https://value-senmon.com/archives/news/1795>

※当日ご都合が合わない方もこちらからお知らせください。
次回セミナーや動画配信がある場合にご案内します。





(株)応用社会心理学研究所では、これまで「職業教育」をテーマに3つのセミナーを実施してまいりました。

- ・2016年 Part1「いますぐ、リーダーにできること」
- ・2019年 Part2「ゆらぐ専門学校のアイデンティティ」
- ・2021年 Part3「選ばれる学校の『教育の質』とは何か？」

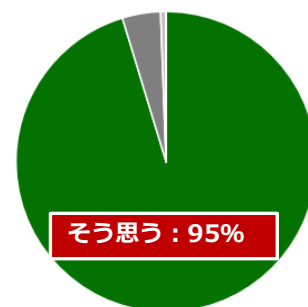
全国の専門学校の経営層・マネージャークラスをはじめ多くの方にご参加いただき、毎回ご好評をいただきました。

専門学校をとりまく環境が激変する中、「**適応する組織づくり**」、「**価値の指標の導入**」、「**職業教育の未来**」などについて多くの共感の声が寄せられました。

今すぐ、やらなければ！改革の方向性がわかった

- “数”を追うばかりに本質的なことが見えづらくなっている。教員、職員、学生の間に価値の共有がなされていないという部分では、まったくその通りで課題が山積みだと痛感した。
- 組織として、チームとして日々の教育活動を取り組んでいかないといけないと、強烈に思いました。
- 学生への迎合と満足は違うという点において、学生満足に対してもっと学校としてどうあるべきかという事を考えるきっかけになった。
- これからの社会を見据えて、早期に改革を進めなければ、学生は集まらないことを痛感。
- マネジメント上の課題（理念の具体性、教育目標の具体性、教員間の意識統一・見える化）において、不十分な所があると感じた。

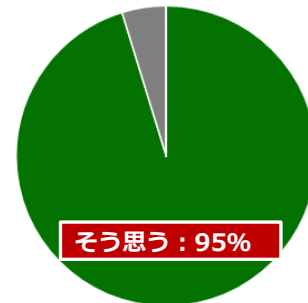
Q.内容が参考になった



日ごろ感じていた課題が、より明確になった

- 何となく出来ている、感覚的に理解出来ているという所で止めていて、それを体系化、システム化、見える化出来ていない。または、その方法が分かっているという事を改めて痛感致しました。
- 日頃の業務、学校運営で課題に感じていたことを専門的なお話によって、より具体的に捉えることができた。時間が短く感じられるほど充実した内容だった。
- 経営と教員の意識の統一（内発と外発のバランス）は喫緊の課題であると感じていたので、理論的に整理できてよかった。
- 授業評価が単なる作業になっている。個々の内省に頼っている状況で組織で活用することができていない。

Q.セミナーに参加して良かった



※2016～2021「進化論」セミナー参加者アンケートより

(株)応用社会心理学研究所 学校事業分野での実績

(株)応用社会心理学研究所は、学校事業分野では、募集マーケティング、ブランディング、キャリア教育等の研究・実践を行っております。中でも、**進路決定研究については、27年の実績**があります。

◆大学進学者に対する全国一斉調査 (対象：大学進学検討者 26,993名)

大学進学メカニズムを明らかにするために、大学進学を希望する50万人に対して調査を実施しました。



◆高等教育機関からの受託調査 ・大学向け各種調査 延べ20校以上 ・専門学校向け各種調査 延べ80校以上 (※全国専門学校共同調査は除く)

入学者／非入学者調査、在校生調査、修了生調査、教職員調査、オープンキャンパス調査、募集説明会調査、授業評価調査、インタビュー調査、ニーズ調査 など

◆全国専門学校共同入学者調査／卒業生調査 [全国の専門学校225校、17万人以上のデータベース]

専門学校の募集活動やブランド構築を支援し、教育の質の向上に役立てていただくために大阪府専修学校各種学校連合会と共同調査を行っています。

◆「13歳のハローワーク公式サイト企画“しごと観育成”研究会」

若者の“しごと観”育成を目的として“しごと観”の現状や、影響する要因をつきとめるための調査・研究を行っています。

◆高校生から見たキャリア教育実態調査

全国の高校生4,679人（18校）を対象に、高校で行われているキャリア教育の実態と“しごと観”の醸成について調査しました。など、他多数